

ウッドデッキ×立命館慶祥中学校・高等学校対話会報告書

NPO 法人ウッドデッキ (WD) は 2025 年 11 月 1 日 (土)、北海道江別市の立命館慶祥中学校・高等学校において、生徒との対話会を開催しました。午前の部では中学生を対象に「世界に通用する 18 歳を考える～大学の学び、研究の醍醐味～」をテーマに、午後の部では高校生と「挑戦をもっと自由に～私はこんなことがしたいんです～」をテーマに、多様な視点から語り合いました。

1. 午前の部：中学生との対話会

午前中は、中学 3 年生 180 名、教員、WD メンバー 10 名が一堂に会し、対話会の目的説明と WD メンバー紹介を兼ねた開会式から始まりました。その後、生徒は 6 つの教室に分かれ、各室で WD メンバーによる講話を聴講しました。専門領域に基づく「キーワード」を 3 つ掲げ、それに関心をもつ生徒が自らグループを選択する形式で行われました。講話後は、生徒と WD メンバーが直接対話し、自由な質疑応答が展開されました。

対話会のグループメンバーとキーワード

グループ	担当		キーワード		
グループ 1	山極	石塚	野生動物	フィールドワーク	冒険と安全
グループ 2	カセム	鹿野	留学	アジア的価値観	デジタル変革
グループ 3	秋山	安田	仕事	人生	挑戦
グループ 4	近藤	辻	文化	文明	自然
グループ 5	井関	—	発生	頭と顔の形	国際交流
グループ 6	渡辺		多様性	コミュニケーション	世界と協力

対話の中では、中学生の中に進路への不安を抱えつつも、相談の仕方がわからず孤立してしまう生徒が一定数いることが明らかになりました。一方で、想像以上に積極的に質問をする生徒がいる反面、自信のなさから声が小さくなってしまふ生徒も多く見受けられました。この年代は初対面での対話にまだ慣れておらず、緊張が強く出る時期でもあることから、より丁寧なアイスブレイクの必要性が浮き彫りとなりました。



中学生との対話会開会式



中学生とのグループごと対話会

2. 午後の部：高校生との対話会

午後は高校2年生約40名と教員、WDメンバーが同じ会場に集まり、開会式の後、8つのグループに分かれて自由な対話が始まりました。まず高校生自身が興味や関心を語り、WDメンバーがそれを受け止めながら対話を深めていく形で進行了ました。



高校生との対話会開会式

高校生からは、大学進学やキャリア選択に関するより踏み込んだ質問が多く寄せられました。同級生の本音を初めて知り、互いに驚く場面も見られました。将来への真剣な姿勢

と、「選択を誤ってはいけない」というプレッシャーの双方を抱えていることがうかがえました。

また、中学3年生から高校2年生へとわずか2年の差で、表現力や論理的思考の成熟度が大きく変わることを目の当たりにし、身体だけでなく心の成長が著しい時期であることを再認識しました。この多感な時期に多様な大人と接し対話することの意義は非常に大きいと感じられました。



高校生とのグループ討議

3. 生徒アンケートにみる成果

●中学生の声

アンケートでは、

- 「どんな質問にも真摯で内容の濃い返答が返ってきた」（すべてのグループから）
- 「とにかく質問するのが面白かった」
- 「自分から質問することの大切さを知った」
- 「好奇心をもって調べることを実践したい」
- 「いろいろな挑戦や体験が価値観を変えると知り印象に残った」

など、前向きな感想が多数寄せられました。

●高校生の声

高校生からは、

- 「体験談を聞いて自信が湧いた」
- 「異文化理解の重要性を知り、新たな視点を得た」
- 「もっと本を読んだり、大人と対話する機会を増やしたいと思った」
- 「戦争と平和について深く考える契機になった」

という充実したコメントが寄せられました。

4. WD メンバーによる振り返り

WD メンバーへの事後アンケートでは、全員が今回の対話会を「非常に意義深い機会」と評価しました。

今後の対象としては、中高生への継続的な実施を望む意見が多く、大学生・大学院生との対話も有益であるとの声も挙がりました。中学生から大学院生まで、幅広い年代への支援ニーズの存在が示唆されました。

特に多かった意見として、

- 少人数での車座対話が、率直な語りを引き出すうえで有効
- 規模を大きくしすぎると対話量は減るものの、効果の波及は期待できる
- 良質なアイスブレイクや、対話会に理解ある学校との連携が成功の鍵
- 事後フィードバックをもとに改善を重ねることが重要

が挙げられました。

5. まとめと今後の展望

今回の対話会を通じて、悩みを言語化できず抱え込みがちな中高生に、安心して語れる場を提供することの重要性を再確認しました。対話によって生徒は新しい視点を得ると同時に、シニア科学者である WD メンバーにとっても中高生の価値観や考え方に直接触れる大変貴重な機会となりました。

今後はこれらの学びを活かし、

- 少人数感のある深い対話の継続
- アイスブレイクの工夫

- 学校との信頼関係の強化

を柱として、より質の高い対話会の実施を目指します。

本対話会は、立命館慶祥中学校・高等学校の山口太一副校長をはじめ、教員の皆さまの丁寧な企画と生徒への温かい呼びかけにより実現しました。今回得られた信頼ある連携を基盤に、今後も中学・高校と協働しながら、未来を担う若者の成長を支える対話活動をより一層充実させていきます。

以上